

令和3年度「未来を創る学力向上支援事業」に係る
未来を創る授業力向上協議会（総合的な学習の時間）

1.目的

各中学校及び義務教育学校後期課程の総合的な学習の時間担当教員，指導教諭等を対象に，学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり及びカリキュラム・マネジメント等に関する講義や実践発表を通して，総合的な学習の時間における教員の指導力及び生徒の資質・能力の育成等に資する。

2.主催 大分県教育委員会

3.期日 令和3年6月3日（木）13：20～16：30

4.場所 コンパルホール（多目的ホール）

5.内容

発表「中学校区間連携をめざした総合的な学習の時間の充実と課題」

<発表者> 大分市立碩田学園 教諭 吉武 諒 氏

- 中学校に進学すると探究活動のリセットではなく，
どうすればスムーズなつなぎができるのだろうか...

<研究テーマ> 中学校区間の連携を意識した

総合的な学習の時間の充実

- 中学校へのスムーズな接続を実現するために，中学校区の小学校間で連携した総合的な学習の時間のあり方を探っていく
- 佐伯小・佐伯東小学校6年担任と協議（系統表をもとに子どもの実態を共通理解）
- 共通の探究テーマを設定 佐伯駅を舞台に佐伯のためにできることに取り組もう
- 渡町台小学校（6年），探究への意欲を高める取組
「協育コーディネーター」を活用し，学校と地域の生産者をつないでもらう。
栄養教諭に参加してもらい，児童が考えたメニューへのアドバイスをもらう。



<スムーズな接続に向けての成果>

- 資質・能力から子どもの実態をとらえられる
- 中学校にもつながる共通テーマ設定 中学校でも継続した探究活動へ
- 両校の専門性を活かした深い学びの実現
- 探究活動をどうするかという視点のみからではなく，子どもに育成したい資質・能力を意識した視点から「深い学び」の実現へ

<スムーズな接続に向けての課題>

- 子どもたち同士のかかわりの場・教員の協議
- 中学校間で育成する資質・能力や共通テーマを設定する難しさ（佐伯小は参加できず）
- 中学校の先生も含めた協議にできなかった
- 空間（離れた場所）や時間（小学校間の協議・小 中ではなく小 中）の十分な保障の確保が総合的な学習の充実へとつながっていく

行政説明・協議「総合的な学習の時間における校種間連携と授業づくり」

<説明者> 大分県教育庁義務教育課指導主事 後藤 竜太

- 小学校学習指導要領を踏まえ、小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。(中学校学習指導要領：総則)
 - 連絡を密に取り合う(目的, 内容, 時期, 回数など)
 - 目的を共有する(学びの様相の相互理解, 期待する児童の姿の共有など)
 - 一緒にする(保育参観, 授業参観, 研修会など)
- 小・中学校の連携(例)
 - 総合的な学習の時間において育成を目指す具体的な資質・能力系統表を作成し、市全体・校区内の学校において共有
 - 教職員の合同研修会を開催し、地域で育成を目指す資質・能力を検討しながら、各教科等や各学年の指導の在り方を考える場を設定
- コロナ禍を踏まえ、確認しておきたい総合的な学習の時間の意義と今後の取組における重要な視点
 - 計画に基づく弾力的な実践で深く学ぶ 学習過程そのものを学ぶ
 - 現実の中にある総合的な課題に取り組む 人間存在や自分自身について学ぶ
 - 身体を動かす実際の体験を通して学ぶ



講義「学習指導要領の趣旨を踏まえた総合的な学習の時間の展開」

<講師> 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程調査官 齋藤 博伸 氏

<総合的な学習の時間改訂の趣旨及び要点> (解説 p 5 ~ 7 参照)

- (総合の本質) 学校が地域や学校, 児童生徒の実態等に応じて,
教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習
- (総合の充実) 探究的な学習や協働的な学習
特に「課題の設定 情報の収集 整理・分析
まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し,
学習活動を発展的に繰り返していくことを重視
- (成果) 総合的な学習の時間で探究のプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向にある
- (課題と期待) 「資質・能力の育成」「各教科等との関連」「整理・分析」「まとめ・表現」
「一人一人の資質・能力の向上」
- (目標の改善) 「資質・能力の明確化」「教科等横断的なカリキュラム・マネジメント」が示された。
特に単元配列表は、内容よりも、資質・能力ベースで考え、つないでいくとよい
(例) 中3学力学習状況調査：国語
焼き物を調べる中で、焼き物館の担当者とのメールでのやりとり
設問の条件にあわせて、相手にメールで回答する問題
「国語科で勉強した『書く』力」「総合的な学習での活用」「国語科での活用」のように、往還することで汎用的な資質・能力を育成していく



<育成をめざす資質・能力を踏まえた「単元の評価規準」の作成のポイント>

(指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 p 43 ~ 45 参照)

- 「知識・技能」の観点については、「概念的な知識の獲得」「自在に活用することが可能な技能の獲得」「探究的な学習の良さの理解」の3つに関する評価規準を作成する。
- 「思考・判断・表現」については、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・

表現」の課程で育成される資質・能力を生徒の姿として示し、評価規準を作成する。

「主体的に学習に取り組む態度」は、自他を尊重する「自己理解・他者理解」、自ら取り組んだり、力を合わせたりする「主体性・協働性」、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「将来展望・社会参画」などについて育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成する。

< 評価規準の指導計画への位置づけ > (指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料参照)

「単元の評価規準」の指導計画への位置づけについては、総括的な評価を行うためにも、生徒の姿となって表れやすい場面、すべての生徒を見とりやすい場面を選定することが大切である。観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容の時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要である。

評価規準と評価の場面(すべての児童生徒を見とることができる場面)を、評価計画に位置づけていくことが大切である。

例えば p 49 の例だと 50 時間で 10 の項目で評価していくので、1 つの評価規準に対して 5 時間にわけて評価することができると考えられる。だから、ある時点である生徒がその評価規準を達成できていないときには、その生徒に対して指導や支援ができる。こちらが育成しようとしている資質・能力に近づけるために指導を入れる。

p 58, 59 は生徒が評価規準に達していなかった点を、教師の助言により達成した例

p 62 は、職場体験を通しての評価例

NHK for School ドスルコスル 「こうする!“働く”を考える~北海道教育大学附属札幌中学校2年~」

動画視聴 (指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 p 56 ~ 参照)

- ・佐藤さんの課題意識が連続・発展していくことがわかる。このように連続・発展させていくためには、子どもたちがどんなところに関心を持っているのか、そのために誰に出会わせるか、そして彼らが何を学んでいるのかを、教師が見とって、指導に生かしていくことが大事。

< 総合的な学習の時間における主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 >

単元や題材などのまとまりを見通した授業デザインが大事

【授業デザインの要素】・授業の見通しを得る機会 ・グループ学習やディスカッションの機会
・教師が教える場面 ・子どもが考える場面 ・振り返りの機会
こうした要素を適切・効果的に配置することが大事。

そして、知識を交互に関連付けてより理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることで、深い学びにつながる。

目標を実現するにふさわしい探究課題(解説 p 69 ~ 参照)

「横断的・総合的な課題」 「地域や学校の特色に応じた課題」

「生徒の興味・関心に基づく課題」 「職業や自己の将来に関する課題」

< ICT の活用について >

- ・自分の調べたものを撮影する ・撮影したものを詳しく見る ・直接書き込む
- ・ファイルを選ぶ ・インタビューを録画する ・オンラインでインタビューする
- ・文書を作成する ・大きな画面に映し発表する ・他校の児童生徒とオンラインでつながる
- ・いろいろな職種の人とつながる など使われている。

「StuDX Style」(スタディーエックス スタイル)

“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも”活かせる一人一台端末の活用シーンをのせていくので、ぜひご活用を。